

## 石川の巨樹 能登町天然記念物「天狗平の御所桜」

今回紹介するのは、能登町北河内

町天狗平にある、石川県一の、知る人ぞ知る、隠れた名木とも言えるエドヒガンザクラの巨樹（能登町天然記念物、昭和37年11月1日指定）である。

小生は、県林業試験場勤務の時に旧柳田村から、この樹の樹勢回復の依頼を受けて以降、長年にわたり携わってきた。依頼のあった当時は、御所桜の上方にあった天野家に通じる道が、サクラの谷側を巻くようにした歩道程度で車も通れないことから、現在の所へ付け替えられた際、支障となった根を切り衰弱したためであった。

このため、地表に出ていたぶつ切りの根から、紋羽病やナラタケ菌などが侵入しないように太さ3センチ以上のも数十本は、鋭利な枝打ちのこぎりで切り直し、トップジンMペーストをたっぷり塗布して、埋め戻すように土を盛った。更に樹体を元気づけるための森林用肥料を施した。また2〜3センチの厚さで透水性のよい覆土をするように伝えたも

のである。

全体の樹形（写真1）がとても良く、多雪地を感じさせない。勿論、管理が良いからであるが、山間地なので年によってはウン（小鳥）による花芽被害も多いという。サクラの右側の花つきが悪く見えるが、右側には谷があり低温の谷風が吹き上がってくるため開花が遅れがちとなる。



写真1 開花時の御所桜

見事な幹周り

るようだ。

何よりも地元西谷進氏が献身的にお世話をしてくださり、変調に気付かれると小生に電話が入り、写真も送ってくださいるなど、御所桜が今あるのは、ひとえに氏のお蔭である。

なお、地元「御所桜を守る会」があり、会長は北河内町々会長、世話人代表が西谷進氏、町会の全員が会員となっており、石下哲雄氏（輪島市）と不肖小生が顧問となっている。

現地の説明板（能登町教育委員会）には、次のように記してある。

【鉢伏山の懐にある上河内は、能州木地師が活躍した。豊かな林材（ツナ、ケヤキ、トチなど）で天狗椀と呼ばれる古代椀を生産した。

木地師は職祖・惟喬親王（文徳天皇第一皇子（844〜897））口を普及させたを敬い、閑居した江州小椋郷（滋賀県近江市）への参詣奉仕を恒例としていた。その折、彼の地より桜の苗木を持ち帰り、当地に植えたものとの伝承がある。

御所桜はエドヒガンと称される暖地性の品種であり寒冷な当地で巨木となることは真に貴重である。天狗椀の歴史を語る証で、桜では県下一

の幹周りの巨木である。能登町指定の天然記念物の至宝である」

（樹高：13.0m、幹周：4.38m、枝張：南北21.0m、東西20.0m 令和3年7月末の測定時）

（県巨樹の会 松枝 章）

### 県山林大会のお知らせ

第66回石川県山林大会の開催を次の通り予定しています。

・日時 令和3年10月19日（火）午後1時30分

・場所 県立音楽堂邦楽ホール（金沢市）

・主催 石川県山林協会

・後援 石川県、金沢市、

林業・木材産業団体

・内容 挨拶、表彰、意見発表、大会決議など

また、本協会の代議員会を同日10時30分から県地場産業振興センターで開催するとともに、新型コロナウイルス感染症防止に係るガイドラインに基づく適切な対策を講じた上で、両行事を開催する予定といたしますので、ご協力をお願いします。